

トータルな英語力が身につく英字新聞の読み方 (第一回)

Read English paper and improve your English

野 呂 一 郎

トータルな英語力が身につく英字新聞の読み方 (第一回)

野 呂 一 郎

英字新聞、というと皆さんはとっつきにくい、読みにくいと感じられるのではないのでしょうか。また、英語は会話ができなきゃ今の時代ダメでしょ、英語を読むのはいいよ、とおっしゃるかもしれません。いいえ、英字新聞はそんなに読みにくいものでもなければ、英会話の上達と関係ないものでもないのです。今回は、私の愛読するウォールストリートジャーナル紙（Wall Street Journal Asia）を題材に、トータルな英語能力をつけるための英字新聞の読み方をご紹介します。

英会話がグンと上達する？ウォールストリートジャーナル紙

「ウォールストリートジャーナル紙を読み始めると、英会話力がグンと上がる。」こういって、初めてこの新聞を手にとった皆さんは怪訝な顔をされることでしょう。みなさんはこういわれるかもしれません。「ウォールストリートジャーナル紙は別に音声付のCDの付録があるわけではないし、英会話のコーチがおまけについてくるわけでもない、私が手にしている紙面は、むずかしそうな英文の記事がしきつめられているだけ。英語に関して言えば、リーディングしか関係ないはず。私も生きた経済のリーディング・スキルを身につけるために、購読を始めたわけで、スピーキング能力は期待していなかったんだけど・・・。」と。

具体的に、ウォールストリートジャーナル紙を読み始めたあなたの英会話能力がアップするプロセスは、次のようなものです。あなたはいつものように同僚の、または知り合いの外国人ビジネスパーソンと挨拶を交わします。やあ元気？の挨拶の後、こう切り出してください。「今日のウォールストリートジャーナル紙の一面には、・・・が取り上げられていましたね」。相手が一流のビジネスマンであるほど、この話題で最低5分は会話が続きます。また、あなたが外国人のクライアントにはじめて会う場合、その方の業界をあらかじめチェックしておいてください。そしてあなたは自己紹介のあとにこういうのです。「ところで、ウォールストリートジャーナル紙に書いてありましたが、あなたの業界で

は・・・が話題になっていますね。」相手の話は止まらず、あなたにしゃべらせてくれないかもしれません。たとえば、実際の会話はこんな感じです。

外国人ビジネスパーソン「Hi, Yoshi, what's up? やあ、ヨシ、元気かい？」

あなた「Not bad. How about you? ぼちぼちかな。君は？」

外国人「Can't complain. オッケーさ」

あなた「By the way, The front page of the Asian Wall Street Journal says the CEO of Morgan Stanley has been ousted.」（ところで、ウォールストリートジャーナルの今日の一面はモルガンスタンレーのCEOが更迭されたって話だね。注：本紙2005年4月1－3日号1面。ちなみにAccording to the Asian Wall Street Journalという言い方は英語の厳密なstyleの点からは不適）

外国人「That's worth a scoop! How come he has been kicked out?」（エー、それってほとんどスクープじゃない？ 何で彼は追い出されちゃったの？）

あなた「The bottom line is he hasn't done his job of delivering shareholder returns」（結局彼は、株主のためにリターンをきっちりあげられなかったと言うことなんだよ）

外国人クライアントの場合

あなた「Computer business seems to be getting harsher and harsher these days」（コンピュータービジネスはどんどん厳しくなっているようですね）

外国人クライアント「It sure does.」（おっしゃるとおりです）

あなた「The Asian Wall Street Journal says even the Chinese giant Lenovo's shares have been down significantly. This should indicate the market is questioning Lenovo's ability to integrate and improve IBM PC business.（アジアウォールストリートジャーナルによれば、中国のコンピューター巨人のレノボでさえ、相当株価が下落していますからね。これは、市場がレノボは買収したIBMのパソコンビジネスを生かして発展させていく能力がないとみている証拠ですよ。注：本紙2005年4月1－3日号1面。

外国人クライアント「You enlightened me.」（良い情報とご賢察を頂きありがとうございます）

さまざまな会話のバリエーションはありますが、あなたが日頃ウォールストリートジャーナル紙を読んでいると、こんな感じのコミュニケーションができるでしょう。日本人のビジネス英会話で私がいつも思うことは、日本人ビジネスパーソンは国際ビジネスでいま

何が起きているか、実に知らないということです。だから、会話が盛り上がらない。ぺらぺらしゃべっているつもりでも、相手には認められていない。あなたがカレントな話題を出して、相手に「こいつは面白いやつだ」と思わせたとき、会話は自然にヒートします。国際ビジネスでもっとも大事なものは、初対面のクライアントから「こいつはできる」と思わせることです。そのためには、まず良質のグローバルなリアルタイム経済情報で武装する必要があります。グローバル・ビジネスでイニシアチブをとろうとおもったら、相手から尊敬されること、これに尽きます。自分の持っている知識や洞察で相手をoverwhelm（圧倒）できればしめたもの。ウォールストリートジャーナル紙を読み続けていれば、それができます。私が保証しましょう。

グローバル・コミュニケーションの^{起爆剤}driverとしてのウォールストリートジャーナル紙

世界中のビジネスマン、ビジネスウーマンがウォールストリートジャーナル紙を読んでいます。お互い共有している情報があり、それを話題にすると、会話はもっとも弾むものです。そして、弾む会話こそ、あなたの英会話力を磨く最も実践的な機会なのです。あなたもその記事や情報を知っているから、話を切り出せる、そして相槌も打てる、そして自分がその記事を読んでいるから、英語でそれを言える。相手の会話も同じ話題がソースだから、わかりやすく、聞きやすい。そんな会話をしているうちに、自然に英会話がうまくなるのです。英会話が上手というのは、良いコミュニケーションを取れる能力があるということです。良いコミュニケーションとは、良い会話のキャッチボールができることにほかなりません。ウォールストリートジャーナル紙の記事を題材にすれば、自然に無理なく良い会話のキャッチボールができるでしょう。その中で、ますますあなたのビジネス英会話能力は、いやでも磨かれていくのです。

ウォールストリートジャーナル紙でビジネス英会話がうまくなる、意外なことだったかもしれませんが、これは事実です。必ずあなたも体験することでしょう。

グローバル化の時代に求められる真のコミュニケーション能力

ウォールストリートジャーナル紙の記事を題材に、外国人ビジネスマンと円滑なコミュニケーションをとるあなた・・・実はここに、今のグローバル・ビジネスと日本人の英語を取り巻く真実があります。それは、今日日本人ビジネスパーソンに最も求められている能力は、グローバルな情報力と英語力という二つの能力を合体させた力である、という現実です。もはや単なる英会話能力がある、だけではグローバルなステージでビジネスを成功させることはできません。英会話能力に加えて、グローバルな経済で今何が起きている

かを、常に英語でアップトゥデートし、自分のものにする“情報力”が絶対に欠かせないのです。この能力を私はグローバル・コミュニケーション能力と呼んでいます。このグローバル・コミュニケーション能力とは、実は英会話を超えた、今最も求められている真のコミュニケーション能力なのです。

リーディングはもちろん、ライティングもうまくなる

もちろん、ウォールストリートジャーナル紙購読を始めたあなたが手にする英語能力は、この新時代の英会話能力だけではありません。卓越した英文を読むことによって得られるリーディング能力、経済、経営関連の語彙力、表現力に加え、正しく効果的に自分の言いたいことを伝えることのできるライティング能力も英文ライティングの力も、身につきます。なぜならば、ライティングの力とは、良い英文をたくさん読み込むことによつてのみ身につく、といえるからです。（ライティングの本格的なスキルについては、リクエストがあればまたこの拙稿の続きで取り上げてても良いと思っています）

ウォールストリートジャーナル紙購読が約束する3つの能力

そう、ウォールストリートジャーナル紙で得られる力は、英語の総合力（読み、書き、話す、聴く）とグローバルでリアルタイムな情報力です。しかし、それだけではありません。このメディアは、あなたに“洞察力”というとんでもない武器を与えてくれるのです。それは読めばわかりますが、ウォールストリートジャーナル紙は、日本のそれを含め他の多くのマスコミ媒体がそうであるように、単なる通り一遍な事実を報道するといった媒体ではないのです。不偏不党な取材の公平性をベースに、どの記事もスクープに近いような事実の掘り起しがあり、多面的で鋭い分析に加え、徹底した取材のみがなしえる深い洞察に満ちています。はっきり言いましよう、ウォールストリートジャーナル紙に関しては、役に立たない記事などひとつもない、と。ウォールストリートジャーナルを読み続ければ、この英語の総合力、グローバルでリアルタイムな情報力、そしてウォールストリートジャーナル紙を読んでいるあなただけが身につけることのできる洞察力、この3つが必ず身につくことをお約束します。

そしてこの3つの能力こそ、グローバル化がますます進む現代において、most competitive（最も競争力のある）な人財になるために求められている能力なのです。

次回また書くチャンスがあれば、さらにウォールストリートジャーナル紙の魅力を探ると同時に、紙面構成などをご紹介しますと思います。